

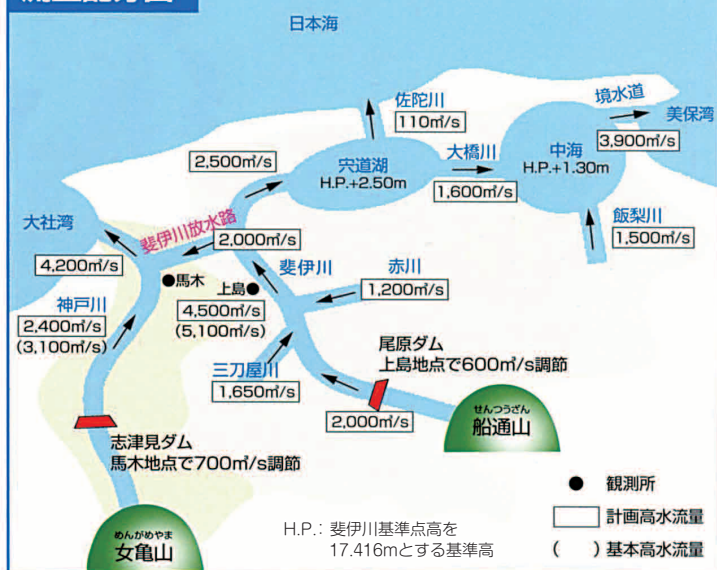
「斐伊川放水路」

運用開始



出雲市斐伊川町出西上空より望む(平成24年4月)

流量配分図



斐伊川・神戸川治水計画の概要 (3点セットの概要)

斐伊川流域に戦後最大の被害をもたらした昭和47年7月の洪水を契機に、県は、昭和50年「斐伊川・神戸川の治水に関する基本計画」(左図参照)を発表しました。これは、斐伊川・神戸川両水系を一体として、①上流部の尾原ダム・志津見ダムの建設、②中流部の斐伊川放水路建設と斐伊川本川の改修、③下流部の大橋川改修と中海・穴道湖の湖岸堤の整備により、各流域で治水機能を分担し合う治水計画で、いわゆる「3点セット」と呼ばれています。

斐伊川放水路事業の概要

斐伊川・神戸川治水事業は、この3つの事業が一体となって、流域の尊い人命や貴重な財産を洪水から守る、島根県の「百年の大計」であり、また、「平成のオロチ退治」とも言われています。

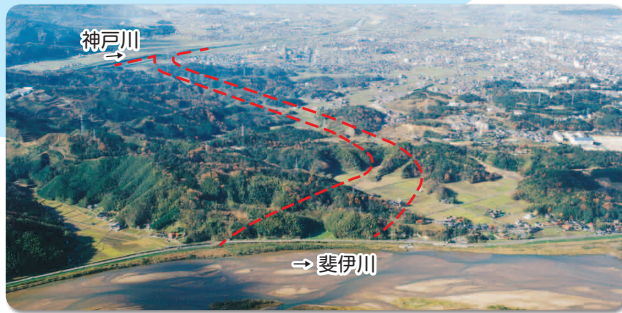
「斐伊川放水路」は、大津町上原地区付近から上塩治町半分地区までの4.1kmの区間を約100mの川幅で新たに掘削し、洪水時に斐伊川の流水の一部を神戸川に分流させることによって、斐伊川の下流域や穴道湖の水位上昇を抑えます。また、神戸川下流部の川幅も平均で1.5倍(300→370m)に拡張することで、両河川の安全性を高める役割を担っています。

昭和57年、中流地域の放水路事業計画地である当市は、事業の同意をし、放水路事業予定地の本調査と用地買収が開始されました。平成6年には、斐伊川放水路事業起工式が行われ、放水路工事が本格的に開始されました。そして、「斐伊川・神戸川の治水に関する基本計画」の発表から約40年の歳月を経て、6月16日、「斐伊川放水路」が竣工の日を迎えました。

治水対策の3つの柱(3点セット)の内、上流の尾原・志津見ダムに続いて、中流の斐伊川放水路が完成したことで、今後は、下流部の大橋川改修事業の早期の推進が望まれます。

斐伊川放水路(開削部)

丘陵地だったところに斐伊川放水路を建設しています。



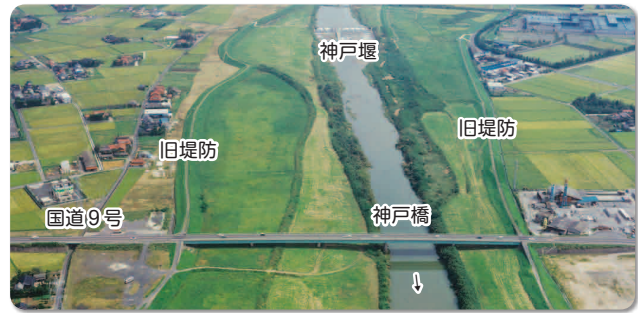
工事着工前(平成4年)斐伊川の分流地点(大津町上来原地区)から斐伊川放水路を望む



工事着工後(平成24年)斐伊川の分流地点から斐伊川放水路を望む

神戸川(拡幅部)

新しい堤防が建設され、川幅が広がりました。
神戸橋や神戸堰もそれにあわせ、新しく建設しています。



工事着工前(平成4年)河口から7Km付近



工事着工後(平成24年)河口から7Km付近

主な工事内容

- ◆施工延長／13.1 km (拡幅部: 9.0 km、開削部: 4.1 km)
- ◆築堤土量／約400万m³
- ◆取水堰改築／1か所
- ◆排水機場／2か所
- ◆残土処理量／約900万m³
- ◆分流堰／1か所
- ◆用地買収／約322ha
- ◆掘削土量／約1,100万m³
- ◆橋梁／25橋
- ◆水門／1か所
- ◆家屋補償／437戸

斐伊川放水路事業のあゆみ

昭和47年7月	豪雨により斐伊川・神戸川流域全域で被害発生
昭和50年10月	島根県が「斐伊川・神戸川の治水に関する基本計画」を発表
昭和54年11月	国、島根県が「斐伊川・神戸川治水計画」の具体的内容を提示
昭和56年4月	国が斐伊川放水路を大規模工事として採択
昭和57年6月	大橋川改修に関する測量に着手
昭和57年9月	出雲市が条件付きで基本計画に同意
平成6年5月	斐伊川放水路事業起工
平成14年4月	国が「斐伊川水系河川整備基本方針」を策定
平成18年8月	神戸川及び斐伊川放水路が一級河川に指定され、斐伊川水系へ編入
平成21年3月	神戸堰が完成
平成22年9月	島根県知事が、出雲市長に分水協議を申し入れ
平成23年6月	志津見ダムが完成
平成24年3月	出雲市長が、放水路への分水を了承
平成24年9月	尾原ダムが完成
平成25年3月	斐伊川放水路分流堰が完成
平成25年6月	斐伊川放水路運用開始